

第5回サッカースタジアム検討協議会

三浦会長

それでは定刻となりましたので始めさせていただきます。本日も大変お忙しい中、頻繁に会を開催しておりますので、もう今回が来たのかなというイメージを持たれていると思います。なかなか進めるべきことも多い状況ですので、今、頻繁に行わさせていただきます。

ただいまから、第5回のサッカースタジアム検討協議会を開催いたします。本日は高木委員が所用のため欠席されております。

それでは会に入りたいと思います。次第の方をご覧ください。今回、議事として広島に相応しいサッカースタジアムについてとじていますが、内容としては、ひとつは、複合機能化あるいは多機能複合化ということがひとつの柱になるかと思っています。そのような面でき々と資料等の提示をしていって、皆様に意見をいただこうと思っています。つきましては、配布資料について確認をしていただきたいのですが、資料の1としてスポーツを核とした街づくりを担う「スマート・ベニュー」というパワーポイントを印刷した資料が手元にあると思います。それから資料2は「都市とスポーツ」という中国新聞社で特集されていたものをコピーしたものになっています。その後、資料3の1、2、3、4ということで、Jリーグのクラブライセンスに関することが3つほどあります。そして資料3-4としてはJリーグの観戦者の調査結果があるという状況です。資料の方大丈夫でしょうか。

それでは進めていきたいと思います。少し振り返りますと、前回の協議会で広島に相応しいサッカースタジアムという事で、そもそもサッカースタジアムとして、今、私たちは広島の地に是非あればという事で議論を進めております。そういった場合にこういったもので建設しなければいけないのかといった、建設それから改修における要件、これが定まっておりますので、そういったものについてどういう状況にあるのかということ。それから、サッカースタジアムの多機能複合化ということはどういうことがあるかということ。そして、実際に今後スタジアムの建設を考えた場合に、その場所としてどこがあるのかという点で、今、存在する主な大規模用地等について資料を確認しながら意見交換をした段階になっていると思います。

本日は、それらを受けて、今、サッカースタジアム単独は財政的な面でも厳しいところもありますし、街づくりの中でスタジアムを上手く活用していこうという視点はあります。そういった中でやはり多機能複合化というのが一つの方向であるという事で話を進めている訳ですが、それがどういう意味を持つのか、あるいはそれがもたらすものはどういう効果があるのかという事について認識を深めつつ、今、この地で必要なものは何かということについて議論を進めていければと思っています。スタジアムそのものが今後の街づくりへ寄与するものであるという事、また市民や県民にとって寄与するものであるという視点で、何ができるかを考えていければと思っています。そういった事を進める際に私もから福岡市の福岡都心再生戦略の取り組みについて紹介させていただきました。これは何故福岡の事例かという事ですが、官民学といったものが一体となって都市の力を高めるために何ができるかを議論して進めている一つの成果であろうと思っています。今回、スタジアムという事ですが、やはりこの場でも広島という地域における都市の力の向上にお

いて官民が一体となって取り組むべき事だろうと思っておりますので、福岡が先進的に取り組まれていますから、それを紹介させていただきました。それから、一方、日本政策投資銀行様からスマート・ベニューについて研究されているということで、その紹介をさせていただきました。街づくりの中核としてのスタジアムがある、あるいは地域の交流空間としての存在意義があるという新しい位置づけを研究をされております。これは都市全体の戦略ともマッチするということで、今日、実はそれについての詳しい説明のために来ていただいているわけです。実は、福岡の方にも、今回、より具体的な説明をお願いしようと思っていたのですが、日程の調整が付きませんでしたので、これについては次回以降調整ができれば説明をいただこうと思っております。そういった流れで本日は進めていきます。

最初に資料1です。スポーツを核とした街づくりを担う「スマート・ベニュー」、副題として地域の交流空間として多機能複合施設ということで資料を用意していただいております。日本政策投資銀行がこのような研究をされているということで前回紹介をさせていただきました。資料としては色々な研究の成果の一部が今ここで用意されていることですので、広島という地域に特化したものではありませんが、今こういった視点での街づくり、それからスタジアム等の位置付けがあるということで、今回、私達も認識を更に深めていければと思っています。それでは、早速ですが説明をお願いしたいと思います、よろしいでしょうか。

日本政策投資銀行（新井次長）

皆様こんにちは。日本政策投資銀行の中国支店と地域企画部がこちらにお邪魔をしております。あらかじめ三浦先生から第5回のサッカースタジアム検討協議会でこういった貴重な機会をいただいて、私どもは一部途中ではございますけど研究成果をとりまとめているものについて、皆様にご紹介する過程で、今後のサッカースタジアムの検討協議会における議論が、より活発になればと思ひまして、こちらの方に参上させていただきました。

私が所属しておりますのが政策投資銀行の中国支店でございます。私はその次長をしております新井と申します。それからもう一人右におりますのが、本店の地域企画部で今回のスマート・ベニュー研究会の事務局を兼ねて実際にこのレポートをまとめたものが、隣におります調査役の桂田でございます。

今日は、これから時間を3～40分いただくなかで、皆様にスマート・ベニュー研究会でとりまとめている内容のポイントをお伝えしながら、先ほど三浦先生のお話にありましたように、今後、その競技場を整備していくにあたりましては、多機能複合化という流れが、既に見えている流れであるというお話でありますので、そういった流れとスマート・ベニュー研究会での一つの要点が同じような形になっていくところをご紹介させていただきたいと思っております。もう一つは中国支店で広島に本拠を構えている店と本店から参っておりますこの二つのチームが意味しておりますところは、当然スマート・ベニュー研究会そのものは昨年の12月から発足して、この1月～8月まで研究し、その成果をこの8月に公表させていただいているものでありますけども、これは全国色んな観点から調査をしているものでございます。一方、これ自体がどのように広島市にとっての都市戦略でありますとか、街づくりでありますとか地域振興といったところにどういう意味合いを持

たせていくのか、この辺のところはおそらく今後、中国支店の役割であろうと思っております。従いまして、そういった検討を深めていく時の入口として、まず、私どもがこの8月に公表いたしましたスマート・ベニュー研究会のレポートを桂田の方から申し上げたいと思っております。

私ども政策投資銀行は政府系の金融機関として、こういった街づくりでありますとか、都市基盤の整備でありますとか、あるいは地域振興といった観点に半世紀を超えるような長い歴史を持って活動をしてまいりました。広島にあります中国支店も店を構えてから52年ほどになります。従いまして、そうした意味では私どもなりに色んな投資の事例でありますとか、そういった観点からの整備していくうえでの様々なファイナンスのポイントも含めて知悉しているつもりでございます。従いまして、何か今後の議論の中でお役立てできるものがあるのではないかと思います、今日は参上させていただいたので、これからお許しただければ、次の回にも海外調査の取りまとめを含めてご報告をさせていただくつもりでございますので、引き続きよろしくご鞭撻をお願いしたいと思っております。それでは桂田の方にマイクをまわします。

日本政策投資銀行（桂田調査役）

ありがとうございます。私、今ご紹介ありました日本政策投資銀行地域企画部、本店の方におります桂田と申します。私ども本店の地域企画部で、レポートという事でスマート・ベニューという言葉を作りまして、街づくりにスポーツ施設、スタジアム・アリーナ等が寄与できるのではないかと、こういう観点で街づくりのなかで連携してつくっていけば良いのではないかとという観点を持ってパワーポイントの資料をまとめさせていただいております。別途、私どものホームページには全文を記載いたしましたレポートのそのものが掲示されておりますが、本日は概要という事でパワーポイントの資料でご説明をさせていただきたいと存じます。

では、中の方をお捲りいただきまして、一部、資料のつくりの関係で同じような言葉が少し繰り返されるかもしれませんが、そこは申し訳ございません、私の準備不足という事でご容赦いただければと思います。

まず、最初に1ページの方をお捲りいただきまして、そもそも今回のレポートの方を作らしていただこうと思いました契機という事を少しお話させていただきたく存じます。近年、市街地の疲弊であったり、地方財政の問題であったり、これは自治体の財政の話かもしれませんが、あと地域コミュニティの喪失、このあたりが皆様の共通の認識だと思いますが、長年ずっと課題になっている部分かと考えております。現在、後でもう1回単語としては使わせていただきますが、ちょうど今年の年度4月以降開けてからですね、国交省等でコンパクトシティという単語がディスカッションの議論になっております。私どもも街づくりという観点からコンパクトシティとスタジアム・アリーナのあり方を考えて行こうという事で、1ページの図をまとめさせていただいている次第でございます。それを少し可視的にまとめましたのが2ページの図と表でございます。左上から申し上げますと、これが1ページの所で記載させていただきました市街地の空洞化であったり、商業施設が郊外等にできて虫食い状のまちになってますという辺り、また近年、東日本大震災等がございました。防災減災のための施設としてスタジアム・アリーナが使えないかという観点が

あってもいいのかなという事、また、地域の財政の疲弊という街づくり課題とスポーツ施設における悩み課題、施設の老朽化とか収益性の問題があるかと思います。それと併せてですね、少し住民の心とか市民の心という概念になるのかもしれませんが、するとか見るというスポーツ、これを魅力あるコンテンツとしてスタジアムと中でプレーするチーム、こういう概念が一つになっていけば、コンパクトシティの中でスタジアム・アリーナというものが整備されていってはどうでしょうかと、それをスマート・ベニューと名付けたという造語でございます。先ほどからコンパクトシティと申し上げておりますが、この概念、結構単語としては曖昧な概念かなとも思っております。国の方でも使ってはおりますが、皆様、人それぞれによって色んな考え方があるのかなと思いましたが、次の3、4ページをご覧くださいまして、今回、広島の方にお邪魔させていただいたものですから、広島市様がどのようにコンパクトシティとか都市構造という概念をお考えなのかなという事で、私の方でネットの方で見させていただいたところ、ちょうど8月に広島市の都市計画マスタープランというのがあるのを見受けまして、そちらのイメージを転記をさせていただきました。マスタープランによりますと、都市づくりの目標を実現するための土台として公共交通等で連携された集約型都市構造への転換を目指しますということでございます。集約型都市構造というのは国土交通省の部会の方でなされた報告のなかで2009年に作られた単語でして、決して広島市様のオリジナルの単語という訳ではなくて、国の方でも記載し概念として認識されておられる、まあ、作られた単語でございます。その考え方としましては、市街地の無秩序な拡大を抑制し、公共交通にアクセスしやすい場所に居住機能、医療、福祉等の生活サービス機能などを集積させる都市構造ということでございます。これはどういうことなのかと思ひまして、下のマスタープランの図とか国の資料の図を転記してまいったんですが、無秩序に都市は広げない一方で既存の都市機能も大事にします。既に作られている都市を放置して新たなものを作るとかですね、今あるコミュニティとかそれぞれの街の核を壊すという訳ではなさそうでございます、3ページの表とか4ページの緑の絵とかを見ていただきますと、どういう事かと申しますと、それぞれ公共交通の駅とか、広島ですと電停とか、色々な公共交通のアクセスしやすい場所にそれぞれ住民があり、都市機能があり、都市設備があり、そしてそこにアクセスコミュニティがあると、それぞれを公共交通で繋いでいると、これを大事にしようということでございます。3ページの方は国土交通省白書からとったもので、これがややこしくなっているので、4ページの方でもう少しシンプルな表にしたのが次の表でございます。国が作ったという事もあるのかもしれませんが、この概念は決して広島市だけという訳ではございませんで、4ページの右の下を見ていただきますと、他の都市でもこのような考え方はあるようでございます。これは見てますと、島根県の都市計画プランとか、あとはコンパクトシティの概念としては有名な街ではないかと思うのですが、富山市の考え方、東北の方でございますが、北上市、こういった所もそれぞれの都市計画の中で、こういう概念を用いております。これは広島市様が集約型都市構造という概念を出されておられましたので、一つのコンパクトシティの考え方なのかなと予測をいたしまして、このような考え方ですという事をご説明させていただきました次第です。5、6ページの方をご覧くださいまして、5ページは今まで述べてきた事の復習でございます。街づくりのためにスポーツ施設が役に立ちませんか、三浦会長の方から最初ご説明いただきました、後で述べていきたいと考

ておりますが、公共機能とか商業機能とかとの複合型と言うのが、やはり欧米の先進事例でもそうかと存じます。今日の配布資料の中国新聞の資料にもあるかと思いますが、トレンドであるだろうと考えている次第です。それを持ちまして、街づくり、タウンマネジメントという概念の中で、ずっと街のなかの集客拠点、地域のコミュニティの帰属する場所であって欲しいという願いを込めて、サステナブルな施設という単語を定義の中に入れております。それをスマート・ベニューと名付けました。6ページの所はその概念を輪廻図のような形で述べさせていただいている部分でございます。スタートの所をですね真ん中の上の地域住民と地域の企業というところでスタートをさせていただきますと、この住民の方、企業の皆様が、もしもちろん自力ででもという事はかまわないと思っておりますが、行政、街に対して資金を投下してスタジアムとかアリーナとかを街につくっていきますと、それが、ビジター、交流人口、地域交流空間、また域外からの人の交流も生み、それで、地域社会に購買消費という事に結びつけば、また、住民とか企業が街、行政に資金を投下してスタジアム・アリーナが高付加価値化していくという流れを期待したいという図でございます。それが資金の流れとしてのイメージでございます。もう1点が機能としての概念、交流機能としての概念も含んでおりますが、その中でピンク色部分でございます。街の中にスタジアムとかアリーナができますと、そこが人々のコミュニティ空間としても地域コミュニティの喪失をクリアする施設になって欲しいという事、また緊急時の防災・減災の機能にも寄与する施設であるという事で住民とか企業にまた還元されていくという概念が大切かと思っております。スタジアム・アリーナは経済的価値または機能的価値、そしてまたそこでプレーするチームとかクラブの中に対して市民や域外のビジターの方が帰属意識、街の文化として最終的に結びついていければという期待を持っている次第でございます。それで、7ページの所でございます。7ページの所からは少し多機能複合化の概念を段階論で分解したうえで、矢印で引っ張ってみたという表でございます。皆様もよくご認識のところかと存じますが、現在のスタジアム・アリーナというのは、スタジアムの施設の運営とか収益という概念から見るとどうかなと言いますと、空間を時間いくら、平日はいくら、休日はいくら、一日借りるといくら、という形で箱として運営しているという姿がほとんどの現実ではないかと思っております。それに対しまして、維持管理費とか減価償却費、会計の世界ですとこういった概念になってきますが、また作る時に地方債とか銀行借入れとかすると支払利息も発生しますと、これで一応収益が出される、現実はおそらく赤字なんだと思いますがそういう概念がございます。それらを少しでもサステナブルな施設であって欲しいという願いを込めていきますと、少し収益上の概念も見た方が良いのかなと思っております。そのためのキーとして民間の方が運営していく、公共スポーツ施設の世界ですと指定管理者制度という単語がございます。民間とか外郭団体の皆様に運営いただくという、それによりまして収支の工夫をしていただくという概念がございますが、単なる箱貸しから運営者の工夫があっていいのではないかと。ハードとソフトの一体経営というのは何かと申しますと、一番その施設を使う人が運営していけば良いのではないかと、これは作った後の運営の話ではございますが、例えば、サッカーの世界ですと、鹿島アントラーズとか、茨城県のサッカースタジアムとかアントラー自らが確か運営をして、特色ある空間、ロイヤルボックスを整備した事例があったかと思っております。こちらの方でも、広島市の市民球場でマツダスタジアムとかは正にカープが市

民球場を自分で運営すると、これによって収益の最大化、魅力ある施設の最大化を図るといような事がなされているかと思います。この段階を超える概念として、第3段階ということで、複合施設化ということで、公共機能また商業機能との併設という事があることによって、試合を見る目的では無い方々、いわゆるスタジアム・アリーナを目的としていない方がついでにスタジアム・アリーナをのぞいていただく、また、スタジアム・アリーナに来た方がついでに商業施設・公共施設も使っていただくという事で、お互いの利用者の相互作用が生まれて、施設そのものも活性化していくと考えている次第です。最後にその先へという事で、それが施設単体ではなくて、タウンマネジメントという概念を持ちまして、街全体に波及していけばと、そうすればスタジアム・アリーナが街づくりという概念と引っ付いて、スマート・ベニューとして完成していくのではないかと考えております。まだ、国内ではこの1, 2, 3, その先へまで全部いった例はなかなか無いのかなと正直思っております。ただ、海外ではこういう例があるのかなと期待もちまして、海外も今後調べていきたいという部分になっている次第です。8ページの部分につきましては、ソフトとハードと一体運営という概念を少し分解して書いております。スタジアム・アリーナを所有するものと利用するもの、運営者、それぞれ矢印がありますが、端的に申し上げますと収支構造の中で使うものが運営するということになれば、費用とかも一部軽減されるのではないかと、また売り上げも最大化されるのではないかとというような概念で書いている表でございます。9ページは同様に第3段階の部分、お捲りをいただければと思いますが、色んな機能が都市にはあると認識しております。これらが単発であるとそれぞれ住民の方から見てもそれぞれ行くところに単発の所用になってしまうという中を複合化すればお互いのついで利用という概念が生まれまして、それで施設自体の魅力度も高まりますし、そこに人も集まるのではないかと考えてる次第です。また住民の方ももしかしたら一概にそうではないのかもしれませんが、複合化して作れば一つの場所で色んなことがこなせるという事でも効率性の部分もあるのかなと思っております。10ページのところでございますけれども、多機能複合化のところを申し上げてきました、できてくれればいいなあと期待で書いているところでございますが、ただしかしという事でございまして、スタジアム・アリーナというのがどうしても収益性また施設の運営、概念からいくとなかなか運営が難しい、コントロールが難しい施設であるなというのは私どもも認識している部分です。ですので、何が必要かなという事でございまして、今日お集まりの皆様は正に自治体の皆様、また有識者の皆様、サッカーのご関係の皆様もおられますが、官と民それぞれ関係者が色々連携していったスタジアム・アリーナを作っていくことが重要であると。単純に作って儲かるという事であれば、志の民間の方が作っても良いわけですが、なかなかそうもいかないという現実があるという事も認識しておりますので、その観点から官民連携スキームが必要ではないかと思っております。10ページの下に新しい形のと書いてありますのは、今日の資料では添付はしておりませんが、少し専門的な単語になるかもしれませんが、官民連携で整備するPFIという概念がある中で、法律がちょうど平成23年に改正されてですね、その中の新しい概念がスタジアム・アリーナ整備運営に使えるのではないかとということで、この単語を書いております。今日の資料ではこの部分はちょっと単語が細くなりますので省略させていただいております。11ページの表が復習ということでございます。第1段階の箱貸し主体から民間の運営、一体経営というのは先ほど鹿島アントラー

ズ様の例なのかなと申し上げましたスタジアムを使う人が運営もやっしまえば良いんじゃないか、使う人が経営もしまえば良いんじゃないかという概念。複合施設化によりまして、人々の集積度合も高めたり、人々の利用のついで化、効率化という事を述べました。タウンマネジメントという概念ということで、この段階論で少し整理ができるのかなと思っています。先ほど省略したと申し上げましたが、最後の11ページの右下の所に手法としての支援策という事で新しい形のというところの、新しくないものも混ざっているのですが、こういう方式があるのではないのでしょうかという事を単語だけ右下に書かせていただきました。12ページからですね、18ページまでは実は今回のスマート・ベニューのレポートの、今回のスタジアム・アリーナ整備の多機能複合型の考え方の前段の部分でございまして、そもそもこの議論を論じるに当たりまして、そもそもスタジアムとかアリーナというものがどれ位古くなっているのかなという事で全国調査をかけさせていただいたのですが、スタジアム・アリーナというのが全国にどれくらい数がある、それが今更新時期をどれ位向かえていて、それをもし更新するとしたらどれ位お金が掛かってしまうんだろうというのを簡易ながら試算したものでございまして、これはどちらかと言えば、全国の自治体様とかいわゆる概算値という概念で金額は小さくないですよというところを計算させていただいた表でございまして。簡単に一言だけ述べさせていただきますと、13ページのところで直近の1シーズン、リーグやスポーツの種目によって違いますけど、いわゆるプロとかトップリーグクラスの試合が行われたスタジアム・アリーナいわゆる見せる試合と言えれば良いんでしょうか、観客を入れてやるような試合を行ったようなスタジアム・アリーナは全国に593ございました。そのうち築30年以上の施設が27.2%という事でございまして、30年という概念が古いなという概念の切る値として良いのか悪いのか調べきれてないところはあるのですが、30年以上はそれなりに年数が相応に経過しておりますという施設が3~4割くらいあるということでございまして。それを屋外のスタジアムと屋内施設のアリーナの両方で計算積み上げたのですが、15ページのところで一応計算させていただきますと、年数の経ったものを更新していくとすると2兆円ぐらいの計算になりまして、全国で2兆円くらいスタジアム・アリーナの建て替えが、いわゆるプロとかトップクラスの試合が行われるような施設だけでもそれ位ありますので、これをですね地域だけでなく、国全体で考えていかなければならないという事を、金額は決して小さくはありませんという事を述べさせていただいている表でございまして。申し訳ございません。今回の議論と違う部分を述べさせていただきました。19ページ20ページのところをご参考という事で、レポートの本旨と違うところなのですが、少し官民連携という概念から述べさせていただきたく存じます。PPPの活用という事で、官民連携を活用しようという事でございまして。どうしてもスタジアム・アリーナという施設は公共所有というのが現実すごく多いというのが否めない事実かと思えます。そのような中でもし建て替えて作っていくという時に公共施設の建て替えという概念にもなってしまうので、どのように建て替えれば良いのでしょうかという事で表をまとめさせていただきました。一つはこの狙いの部分から申し上げますと、どうしても自治体様、財政という問題が重くのしかかっているのも現実でございまして。その観点からはランニングコストを圧縮するような考え方、総量圧縮というのは一つの考え方といたしまして、自治体様がお持ちの公共施設の面積を作り変えても減らすようにする、例えば、5つの機能を10の面積で

建ってましたという中に対しまして、それを建て替える時に5つの機能は残したまま、面積はなんとか8つにできないかという事で、総量を減らすことで建て替えの理解を住民の方からも得るといような考えでございます。ランニングコストの削減というのは運営に正に工夫をしましょうという事でございまして、総量圧縮の一つの考え方といたしまして、先ほど申し上げました多機能複合化という事で一つにまとめていけばですね、いわゆる共通部分の面積とか減らせますので、その観点からの複合化というのは一つご提案できる話かなと思っている次第です。20ページの部分はこういう現状ですという若干暗い話で申し訳ないのですが、X軸Y軸の表の中で現在の借金と将来の借金という概念を表にしております。これは政令指定都市クラスの都市を並べた表でございます。人口一人当たりの市債の残高、これが今抱えている住民の方ひとりひとりが抱えている借金の値、それをY軸にする時に、このYっていうのが何かというと一人あたりの公共施設の面積という事で、これが建て替わるとそれがもし全額借入とかですると、それは将来の借金になってしまいますので、将来の借金ということを概念的においた図でございます。それがですね将来も現在の借金も少ないという街、現状住民の抱えている、将来も抱える負担が少なそうな都市が左下にある相模原とか埼玉でございます。これが、逆によろしくない所がその対角線上の反対側にある大阪ですね、大阪は皆様たぶんイメージでそういう都市なんだろうなという気はするかと思いますが、現実数字で出してもそうでございます。広島はどの辺かなという事で見ていただきますと、真ん中ややちょっと上、京都、神戸、福岡、大阪よりと、スタジアム・アリーナを作るそのものの概念ではないのですが、もし自治体様につくっていただきたい、自治体様が作りましょうという概念になるのであればですね、どうしてもこの表も頭の隅に留め置いていただければという事でまとめさせていただいております。最後のところでございますが、皆様からもしご賛同いただけましたら、次の時までにはですね、7ページのところで書いた第3その先へという段階のところの部分にですね少しご示唆を与えられるような、先ほど申し上げました国内でそこまで全部その先へまでいった事例はなかなか無いのかなと思っている次第でございまして、それを少し海外の事例で少し研究させていただきたいと思っております。ここに書いております都市機能の補完という概念、単にスタジアム・アリーナをつくるだけでなく、広島という街に貢献できる都市機能に貢献できるという概念から、示唆を与えられるようなスタジアムとかアリーナ、都市機能の組み合わせのあり方を少し考えていきたいというご提案をさせていただきたいという概念でございます。そのために調べたい事といたしましては、複合施設があれば複合施設はどうしてつくりたいと思ったのでしょうかとかですね、あとは、交通の点から見たロケーションとか、あとは施設の利用とか稼働状況、また近隣エリアにどのような効果があったのか、ここは少し定性的になるかもしれませんが、そのような部分も少しコメントができたらと思っております。そのような候補スタジアムとして、上5つ、これも案ですので、現実どこにアポが入られるかというのはあるのですが、フランスとかオランダ、イギリス、アムステルダムのアムステルダムアレナは今日の配布資料でもございますので、皆様も良くご存知かと思えます。あとはアメリカの方の都市再開発等々に従ってできましたスタジアムとか、今、サッカースタジアムという概念でいくと、おそらくフランスが結構、新しくつくっている、もしくはできたてというのが多いのかなと思っております。その辺りも少し行けるものであれば行きたいと思っている次第です。最後でござい

ますが、今日取り留めもなく述べさせていただきました、そこは最初にお詫びさせていただきましたうえで、是非、街づくり、スマート・ベニューという概念を勝手ながら披露目させていただいたという次第です。コンパクトシティという概念色々あるかと思いますが、それで広島の都市機能という概念、今ある既存の都市の街づくり、集約型都市構造という概念が広島市様ございました。こういう概念もあるかと思いますが。多機能複合型という概念、これが新しい先進事例という姿でございます。できたらですね、つくっていかれるに際しましては、地域の皆様のご意見、お考えというのがご納得というのが最後非常に重要かと思っております。そのような議論の資料としてですね、このような私どもの資料もご活用いただければ幸いと思っている次第です。すいません長い時間、お時間いただきましてありがとうございました。

三浦会長

ありがとうございました。今の説明に対して最初に資料の内容の理解を進めたいと思いますので、質問等ありましたら先にお伺いしたいと思います。

永田委員

教えていただきたいのですが、コミュニティー自体、どのくらいの規模を想定してスマートベニューを考えられているのでしょうか。また、もう1点、資料の7ページに第1段階、第2段階、第3段階とありますが、マツダスタジアムはどの段階になるかということをお教えいただければと思います。

日本政策投資銀行（桂田調査役）

どのあたりの都市規模いわゆる集約型都市構造という概念かもしれませんが、核がひとつひとつどれくらいでしょうかという概念が都市によって色々かなと思っています。正直、最初このレポートを作った時は、広島市様のような政令市100万クラスの所から30万～50万クラスの中核市くらいで「まち」の誇りや文化になれば、また収益面からもサステナブルになればということで考えて作っています。実際、レポートができましたら、そういう都市から勉強しましょうと言われておりますし、もうちょっと大きい都市からも言わたりもしまして、現実、いろんな都市規模の所に援用できたらなということですね、それで正に広島市様ですとこうなのかなということ、ご参考資料をお持ちさせていただいたと思います。

もう1点、マツダZOOMZOOMスタジアムが7ページのどの段階かということですが、個人の意見として申し上げてしまうのですが、第2段階までは広島カープ様が指定管理者、運営者という地位を持って収益性の構造の最大化、また、魅力ある施設としての最大化も図られているかと思います。その周りにフィットネスクラブやマンションなどが整備されているのも認識しておりますので、その観点では第3段階に入ってきているのかなと思うのですが、実は第3段階は、私の中で最高系のイメージがあるのですが、運営する人が商業施設とか住宅とかも外部委託かもしれませんが、そこでも主導権が取ればなど期待もあったものですから、もしかししたら、マツダZOOMZOOMスタジアムの場合は、住宅とかフィットネスクラブはカープ様がやってるわけではないのかもしれませんが

ので、絵姿としては第3段階で、実際の運営とか収益という姿からは第3段階の途中かなと思います。

永田委員

今、ちょうどコミュニティーの創出という形で、マツダスタジアムがコミュニティーになっているかどうかは別問題ですし、今、第3段階という形でも、色々、形としては桂田様の方からご覧いただいている形なのですが、私の意見としては第2段階なのかなと、第3段階には全く行っていないかなというイメージはあります。ひとつご提案と申しますか、是非お願いしたいのがですね、次回、アメリカでサンディエゴ、フェニックスもそうなんですけど、アリーナ、スタジアム、スポーツをコンテンツにして、アリゾナは約9年間で100万近くが人口が移入していますし、その理由としましては、スプリングキャンプやスプリングトレーニングなど4大スポーツがあって、かなり人気であり、実際、私も行かせていただいていますので、かなりの人数が増えているという状況で色々なコミュニティーが15か所近くできていますし、更に今後も発展していく形になっている状況です。また、ペトコ・パーク自体も非常に寂れた地域から実際に施設を作って、近くに海軍がありまして、そこから更に共同でかつ斬新な活動をされてまして、ペトコ・パーク自体もかなりあたりが一変した事例だと思います。そういった事例と言いますか、スタジアム・アリーナという形でスポーツでまちを作ったというのはここかなというイメージはございます。参考という形でご案内させていただきました。

日本政策投資銀行（桂田調査役）

ペトコとかこの中にも入れておりまして、正にそういう事例かなと期待しているところでございます。アリゾナとか調べられる所であれば、できるだけと思っています。

塚井委員

広島大学の塚井と申します。都市計画が専門で、スポーツはあまり強くないので、用語をまず確認していただきたいと思うのですが、スタジアムとアリーナの違いは何かですか。

日本政策投資銀行（桂田調査役）

ご質問ありがとうございます。ここは非常に悩ましく難しい質問でして、スタジアム・アリーナの定義は、明確な単語は無いのではないかと思います、ですので最初に申しあげればよかったのですが、このレポート上では、過去1年でトップリーグクラスの試合会場として使われた屋外の施設を主にスタジアムとしまして、一方で屋内の施設をアリーナとしたということです。ただ、もしかしたらこれは先生方のご指摘があるかもしれませんが、そうするとドーム球場とかそれに入らないものも出てくるかと思っていますので、最後、若干、そこは申し訳ございませんが、えいや感があるかもしれません。

塚井委員

ありがとうございます。質問をもう少し正確にすればよかったのですが、今のが17ページに出していたグラフの定義ですね。

日本政策投資銀行（桂田調査役）

はい、「スタジアム・球技場」，「アリーナ・体育館」と分けている定義の考え方としてそうしております。ただ，この場合ややこしくなって申し訳ないのですが，野球場というのが，スタジアムとアリーナに分けてやろうとしたら，日本は593の施設があると申し上げましたが，意外に野球場の数が多くてですね，スタジアムの中から野球場，ソフトボール場を外だしとしております。N数のところ見ていただければ，593施設の所有者にアンケートを取ってご回答があった230くらいの施設の分類なのですが，ここで見ましてもアリーナ121でスタジアムが55で，最初は野球場の46も一緒にしようと思ったのですが，意外に数が割れたので，スタジアムと言いながら野球のスタジアムは別立てにしております。

塚井委員

ありがとうございます。おそらく意図があって分けられたのかなと思ったのですが，従って，門外漢ですけども，このグラフを見て思うのは，スタジアム・球技場の収支のパフォーマンスと野球場・ソフトボール場の収支のパフォーマンスは，細かく見れば有意差があるかもしれないですけど，ほぼ同じと言って差し支えないということですね，このグラフから言えることは。

日本政策投資銀行（桂田調査役）

ご指摘のとおりでございます。スタジアムと野球場は概念的には結構似てるかもしれませんが。

17ページのグラフで赤で表している部分，これは，アリーナの方に向けてご説明するときには多いのですが，収支概念から見ると，アリーナの方が屋外施設より良さそうだと，どうしても屋内施設の方が色々な用途に使えるのと，あとは，イベントが中止になるというリスクがあまりありませんので，そういう概念から公共スポーツ施設主体のスタジアム・アリーナの世界でも，屋内施設の方が収支概念から見ると，どうやら良さそうですと，屋内施設と屋外施設の比較用の数字として入れている部分がございます。

塚井委員

ありがとうございます。大変参考になる数字なのかなと思ったのですが，一方で，この二つの違いは何なのかなと，海外の事例を調べていただけるという話もございましたけども，直近のところ手元で取った数字なので正確かどうか分かりませんが，マツダスタジアムが150万人強ぐらいの観客動員数だったそうです。今年のサンフレッチェはどうなるかはまだまだ分かりませんが，去年の数字だと30万人ぐらいという言うことで，もちろん，カープの今年の150万人は若干できすぎで，近來稀に見る好成績じゃないかと思えますが，ざっと見て100万人以上ぐらいをいつも動員しています。新スタジアム効果もありますけどもね。というところで，海外事例をご紹介していただく時に，是非，数字を洗っていただきたいなというところが1点ございまして，それが，何人ぐらい動員できるのかということです。私は前回の会議の時からずっとうかがっていて，サッカーは大

変魅力的なコンテンツかなという思いもありながら、しかし、ヨーロッパの文化と日本の文化が1対1で対応するものかという感じも受けております。端的に言うと、要するに野球です。野球の存在というのは無視できない。既存であるものですから、私自身も年数で言うと親しんだ年数は野球の方が長いです。サッカーも嫌いではありませんけども。そういった意味で現在の動員力という意味で言うと、いささか、試合数ということですね、収支のバランスを見た時にどうかということで、そんなに遜色が無いのであれば、たぶん、試合数が関係しているとしか判断できないんですけども、そういう意味で野球場の方が分が良いと言えると思うんですね、分が良いというのは、比率でみれば同じかもしれないけども、波及効果という意味で言えば。このことが何を意味しているかということ、日本の状況で考えるならば、サッカースタジアムの複合機能化ということを考える時には、野球場の複合機能化よりも余程頑張らないと、それにはなかなか追いつかないぞということを暗に言っていると思うんですね。もう一つは、数字をあたっていただきたいと申し上げたのは、じゃあヨーロッパはどうなのかと、野球文化がヨーロッパにあまり無いんじゃないかと思っています。スタジアム自体もなかなか大きなものが揃っていて、これに対してどれぐらい動員できているのか、そのあたりが一つの目安になるというか複合機能としてどこまで頑張らないといけないのかと考える際のベンチマークになるのかなと思って質問させていただきました。従って、海外のサッカースタジアムのマーケットポテンシャル、先ほど建て替えのマーケットという意味でのマーケットの話がありましたけども、スタジアムビジネスとしてのマーケットポテンシャル、複合機能ということになると決してサッカーの観客だけが対象ではないということだと思うのですが、そうは言っても一度にたくさんのチケットを売りさばいてという考え方でいくと、やはりメインはサッカーの収益ということのを当然考えていかざるを得ないと思うんですね。もし、今、お調べになったことがあれば教えていただきたいですし、もし、次回までに数字が分かるようでしたら、要するに観客動員数ということですけども、少し示していただけないかなと思って質問しました。

日本政策投資銀行（新井次長）

今のご質問の今後の海外の方の調査の件で、少し補足しますと、いずれにしましても、色んな角度から今回候補になる対象施設についてお話を伺ってくるつもりです。それで、当然のごとく、私どもプライベートでないと聞けないようなこと聞けるのではないかと思っていますけど、一方、私どもがクラブや施設を経営しているものでもありませんので、どちらかと言いますと、スマート・ベニユーの調査の発端が、まちづくりとか都市機能の観点から見ていますので、そうするとどこまでビビッとな数字というものが出てくるかは、正直、これは当たってみないと何とも申し上げられない、ただ、せっかくこういうチャンスをいただいていますので、私どもとしては誠心誠意ちゃんとぶつけて、できるだけお役に立てるような数値を次回までに持っていきたいと思っておりますけど、いかんせん、時間が無い中でやっておりますので、全部お応えできるかどうかは分かりませんが、最大限の努力はさせていただくということでお許しをいただければと思っております。

塚井委員

ビジョンに関わる場所と成績に関わる場所は分離する必要があると思っています。

前回も色々な紹介がありましたけども、必ずしも現状がこうだからこうだと風に簡単にはいかないと思うんですね、とはいいながら、現状はこうだという話をあまりにも置いておくのも、やはり、投資を決めるという時の判断として不安なところはあります。パフォーマンス、現状は見る、プラスどれだけ頑張らなければいけないかを判断するという意味で、外形的な数字で結構です、私もスポーツ統計は詳しくないですけど、そのチームの観客動員数ぐらいであれば、ドイツ語かフランス語かもしれませんが探せば出てこないでもないのかなと、便利なものがあれば、むしろ事務局を担当していただいているサンフレッチェの方が情報をお持ちなのかもしれませんが、そういったものを見てみたいという意味図です。

日本政策投資銀行（新井次長）

1点だけ補足しますと21ページの中にも施設の稼働状況が調査項目でありまして、ここところ必ず今のデータは、観客であれば観客動員数がありますし、付帯用の施設が年間どのくらい、これは試合ベースなのか、商業施設とか、それ以外の公共施設であればどういう目的で使われてどのくらいあるのか、そういった観点も必ずポイントには入っています。ここがどこまで彼らがちゃんとした答えを出してくれるかによってきますが、私もは当然のごとく、スマートベニューの研究のそのものが、入口はそういった都市機能の研究の成果ではありますけども、結果的に500以上ある施設をもう一度整えようとするものすごい金額かかると、それを自治体の財政が厳しい中で本当にこれをまともに整備できるのというところからの問題意識が入っていますので、従って、できるだけその負担というものが、施設を作る段階でのイニシャルコストを整理するということと、施設を持続的に運営する時のオペレーションコストをどういう風に抑え、一方で観客の話ではありますけどトップラインの収入の方を上げていくと、収入を上げるのとコストを抑える結果として、不採算のものができるだけ採算に近づくというアプローチを両面から確認をしようというのが今回の調査の肝でもありますし、必ずそこに行きつくのですが、そういったものがどうしても最終的にはなかなか開示ができなような場合が出てくる可能性があります。できるだけそこまで到達するように頑張りますけど、その手前のところで、およそこんな状況にあるんじゃないかという類推に止まるかもしれません。そこは、ちょっとこういったことがありますということで了承いただければと思います。

加藤（義）委員

ただいまのご説明と前回のご説明と繋がっておりますので、そういう案件で、スマート・ベニューという手法は、全部は理解できていませんが、大体理解できたと思っていますし、色んな地方都市でもこういうものを導入しながらまちづくりについて検討されているというのは良く見ました。今日の論点からいえば、スポーツを興業と見立てて、そして自治体あるいはスタジアムの経営者の収益、そういう経営というものを主体に委託費など色々あって、どちらかと言えば非常に大切なことなんですね、都市のまちづくりの構想として、そういう意味では、このチーム以外のところでキチッとやらないといけないという感じがした。スポーツを核としてスマート・ベニューを進めるというのは非常に無理があるのではないかと、今、広島の論点は、スポーツ施設か文化・芸術か広場か色んなことが言

われおり、そういう中に何をまとめていくかという話の中に、スマート・ベニューのような考え方は、別な所でしっかりやるか、あるいはこのチームに補強してもらって、そのようなことができる人を入れてやるような、大きな問題ではないかと思う。スポーツを一つの軸として7ページにあるように、第1段階、第2段階、第3段階とありますが、取りあえずスポーツ施設を第1段階と位置付けて、色々やってみようかという事については、何故この協議会ができたかという経緯から考えた場合、ある見方ではありますが、少し別な方向行っているような感じがしておりますね。そういう意味で市民が要望し市のスポーツの活性化を図ろうというのは、松江とか北上とか富山とは違うと思うんですね。広島でできるかという事は、自治体側でこういう基本的な考え方というものが並行的にあって、それを私達にリードしてもらいながら進めていくようなものかなという思いで聞きました。それから、大変大事なことのだけでも、私達がここまで、議長の考えにもよるんですけども、必ず必要になってくると思うんですけど、その時になって、こういう大きなテーマに取り組んだ場合、市の収益性がどうかという話にまでなると、ちょっと私達委員として非常に無理なところがあるなという感じで聞きました。しかし、こんな事を考えながら、単にスポーツ施設を作れ作れと言うだけではいけないんだと言う事は良く分かりました、今後の参考にさせていただきます。

川平委員

先ほど説明の中で、7ページの時にスマート・ベニューに向けた段階的事業モデルの整理で、1、2、3とあって、国内の施設の場合は、まだ第3段階まで至ったのは無いんじゃないかとおっしゃられたかと思いますが、その関係でお聞きしたいのは、17ページに収支のことが出てますが、全体として厳しい収支、これは、当然そうだろうなと思っています、その中で232施設の調査回答があって、この中で1、2、3の段階で分けると、大体どのあたりにあるのでしょうか。

日本政策投資銀行（桂田調査役）

ご質問ありがとうございます。17ページの表と7ページの表が直接リンクでなかったのかもしれませんが、今、段階論でいくと、今あるスタジアム・アリーナについてアンケートのご回答ですので、現状の施設ということでございます。そうしますと、私の概念のイメージとしては、ほとんどが1段階で、指定管理者制度、先ほど申し上げましたが、スポーツ協会さんとかサッカー協会さんとか野球連盟とか、運営をスポーツを使う人へまかせている施設も一部ありますので、収支の現状から日本のスポーツ施設はどんな運営状況かという、第1段階から少し第2段階のものも少しあるかもなあとというのが平均的な姿じゃないかなと思います。

川平委員

分かりました。逆に収支がある施設が13.8%（40施設）あるんですけど、これもやはり第1段階とか、そういったレベルなんですか。

日本政策投資銀行（桂田調査役）

今すぐにどの施設だと回答が出てこないのが恐縮ですが、第1段階のものもありますし、第2段階のものが多かったような気がします。結構、ここで収益が良いと出てくるのが、個別施設名は言えないのですが、首都圏の方の割と皆様がコンサートここでやってるねとイメージされるようなアリーナとか、あとは、プロで使う野球場とかは100%超の所も少しあったような気がします。

川平委員

分かりました。これまでの我々の議論の中で、やはり目立つのは、サッカーだけではなくに複合機能を設けないと駄目なのかなということ思っていたものですから、ある程度収支がとれているものが、そういった機能を持っているのか持っていないのかが知りたかったということです。ありがとうございました。

小谷野委員

今、加藤委員と川平委員からお話がありましたこととの関連なんですけども、実際にスタジアムを作る際には資金繰りを含めた色々な投資収益性とか具体的な話になってくと思うんですが、私思うにですね、この第3段階とかその先へというところまでビジネスプロジェクトとかに織り込んでスタジアムの収益性とかを議論するというのは、ここの委員会でもそうですし、現状のスタジアムを運営する人ですとか、行政の立場でも数字を落とし込むのは極めて難しいのかなと感じがするんですよ。私は思うに、現実的な対応というのは第2段階ぐらいまでを織り込んだプロジェクトをまずは作っていった、その中である程度の採算性ですとか地方公共団体としての資金繰りを判断すると、一方で指定管理者先ほどアントラース、マツダスタジアムは100%運営主体となっていますけども、もしかしたら、その指定管理者のところを第3セクター的なものにして、それで実際のスタジアムの試合をやるクラブや球団と市とか県とか、ある種のビジョンを持った人が指定管理者の中に一応声を出せるようなガバナンス体制にしたうえで、第3段階を目指していくという絵になるんじゃないかと思うのですがいかがでしょうか。

日本政策投資銀行（桂田調査役）

ご指摘ありがとうございます。ご指摘のとおり、第1、第2、第3その先へというのは、概念として完成してほしいと思っていますが、それを数字として落とし込んでいく時に必ずその先へまで全部入れてプロジェクトしてくださいというつもりではございません。第2段階までですと、ご指摘のとおり整備してそれに対して運営費の概算が見積もられて、それが黒か赤か、それに対して自己資金を幾らくらい入れればいいのでしょうかという概念が立てやすいかと思います。もしかしまたしたら、第3段階まで敷地を一体整備されるのであれば、少しビジネス的な話かもしれませんが、いわゆる一体で全部整備して、一体整備者が全部責めを負って、投資採算を考えていくのであれば、もしかしまたしたら第3段階も横の不動産収支まで見るとかですね、そういう概念はあり得るのかもしれませんが。ですので、第2段階までで議論するというのはシンプルかと思いますが、もしかしまたしたら第3段階までというのもできなくもないのかなと思っています。ただ、私どもも、その先へまで全部一つで見ることをマストとするつもりはないという認識でおりました。

小谷野委員

あと実際の調査の対象という話で、最近、私も知った話なんですけど、昨今、Jリーグが成長戦略ということで、色々、内外のスポーツビジネスを調べているなかで、注目すべき研究対象として出ているのが、アメリカのメジャーリーグサッカー（MLS）が急速な勢いで伸びていまして、アメリカの4大プロスポーツの中に食い込もうかという感じになってきてます。もちろんこれはグローバルスポーツであるサッカーの中で特にヒスパニックとか元々サッカーをやっている人達を上手く取り込んでいるという要因もあると思うんですが、一方でメジャーリーグサッカーの採用要件の中で、サッカー場をきちんと作るというのも織り込まれているんですね。なので、サッカー主体で使うスタジアムと分かったうえで、色んな投資家等と呼ばい込んでチームの創設を行っている部分がありますので、アメリカに行かれるのであれば、野球プラスどこか代表的なロサンジェルスギャラクシーとか、収支構造とかスタジアムを作る際に行政とどういう会話が合ったのかとかですね、その辺りを明らかにしていただけると、非常に議論的には面白いと思います。もしかしたら、放送権料とか先渡しで来ているので、スタジアムの建設費等がメジャー儲かる仕組みが最初からできているのかもしれませんが、ペトコパークとか行かれるのであれば、それをついでに見てきていただければと思います。

日本政策投資銀行（桂田調査役）

ご指摘ありがとうございます。勉強になります。私もアメリカのサッカーというのはどうなっているのかなということで、情報が少し少ないところもございました。海外調べるにあたりましては、そこも意識しながら調査手法を考えていきたいと思います。

永田委員

先ほど小谷野委員からありましたように、アメリカ等では建設する前に20年～30年と決まっていまして、ある程度20年～30年の収益なり、そういった額が明確に出ていますので、そのへんから逆算して上手く建設費とかそういったものができていくのかなというイメージがあります。また、ロサンゼルスギャラクシーもそうですし、先ほどお話しされたようにですね、先ほど観客動員の話もありましたけども、スタジアムでどれくらいお金が落ちるかというような指標もあります。FCI（ファンコストインデックス）というのがありまして、実際どのくらいお金が落ちてどのくらい経済的にスタジアム・アリーナが活性化できているのかという指標が毎年4大スポーツで各チームごとに出ています。ちなみに、私が試算で僭越なんですけど、大人2人、子供2人の4人家族で、カープ2万5千円でサンフレッチェ2万8千円という形で数字が出ています。これが最低ラインで作っています。それ以上の席を買ったり指定席を買ったりすると絶対もっと大きくなっていく数字ですけど、一番安い席を買って最低限飲み食いをしてという形だとこれくらいの金額になるだろうなというのがありまして、全米ナンバー1の人気があるNFLは約3万8千円のFICがあると、これは年間地元で8試合しかございませんので、それでもこれだけの金額になるという数値が出ています。フェニックスにあるスタジアムでネーミングライツでユニバーシティ・オブ・フェニックスになっているんですけど、カージナルスの本拠地で

すが、そこでは他の展示会だとか年間約250日近く稼働されていますね、そういったもので随分とペイできるという話は聞いております。こういった話はもっとも後の話かなというイメージもあってですね、逆に、広島のスッカースタジアムをどこに作るのか、どの場所に作るのかという意見があって、そこに附随した商圈内でどのくらいのお金が落ちていくのか、回遊性がどのように動いていくのかを考えていかなければならないのかなと思って、今、広島では旧市民球場跡地に始まり宇品に始まり色んな所がございます。その中で実際にどのくらいのお金がどこだと動くのか、逆に言えばですね、多機能複合型という話がありまして、何がそこでは必要なのか、たぶんエリアによっては必要なものが出てくると思いますし、逆に来てもらっては困るようなバッティングするようなものがあるってですね、そういったものじゃないものが必要なケースが出てくると思います。そういった事も客観的な第三者の目として見ていただきたいなというのと、あと、もう1点だけですが、スタジアムという箱物を作るとしたら、それに附随してインフラの整備が必要になってくる場合がございますね、公共交通とかそういったものが必要になってくるのですが、逆にそういった相対的なものが必要になってきた場合の金額と、ただ単にここだと箱物が良い、ここだとインフラプラス箱物になるといった試算も考えていかなければいけないのかなと、広島市民にとってどれが一番ベストなのかという事を提示する必要があるのかなと、その中でスポーツアベニュー、コミュニティアベニュー、こういった形でコンパクトシティを見ていく中で、どこが一番ベストなポジション、スタジアムの位置なのかを考えていく必要なのかなと、先ほど加藤委員からご説明があった時に、そういった事を含めていきながら同時進行でこういった第三者の目を見ていただきながら、跡地の色んなものを見ていきながら提言と言いますか、試算をしていただけたらなと思います。

日本政策投資銀行（新井次長）

永田委員からのご質問とご提案のところについての我々の考え方を少しだけ補足させていただきますと、先ほど加藤委員からご説明ありましたように、もちろんこういった今後の広島にとって大事な都市戦略にあたるような施設をこれから整備される訳ですので、その中でこういった機能からこういった施設整備が求められてくるのかという議論は、大変大事な論点だろうと思っています。従って、私どもはあくまでもサッカースタジアムを整備すると、その時にこの調査候補にあたるような地点で、どうしてその施設が必要だったんだろうということを都市機能の観点から補足をしようと思っています。そうしないと、先ほどから議論が飛んでいたように、すぐ採算点の話にどうしてもいってしまっていて、私どもも銀行の人間ですから我々もすぐそっちの議論に入っていくてしまうんですけども、その前には何故そういった施設を作る必要があるのかとか、作るんであれば当然のごとくそれなりの出費もかかるわけですので、それに見合うような形での単機能というのは無いと思いますけど、複合的な機能ってものを整備すると、こういったことが求められてくるのか、たまたま各国ほかの事例ではこういった機能に対するニーズがあったので、そういった機能を複合的に組み合わせた結果としてその施設においては観客の話もそうかもしれせんし、実際に作る時に、永田先生からもお話があったように、アクセスの所まで含めて整備しなければならなかったのか、それとも、それはもうあって、ただ単に施設があったものをリノベートするだけで済むのかとか、色んなまちまちの財政条件を置いた施設の整

備というものが必ず前提として議論されているはずだと思っております。そこはちゃんと押さえてこようと思います。そのうえで、もし可能であればもっと採算に至るようなプロセスをきちっと補足できると、今後、先の回で、施設整備のポイントのようなものを採算面から議論するようなことになるんだと思いますが、行く以上はできるだけそういった議論に繋がりのようなポイントを1回押さえてきた方が、もう1回聞いてくるというのはコストもかかりますので、そのために調査項目も複数入っている形になっています。ただ、いかんせん限られた時間の中で、相手方が我々の意図を今のように何故それが作られたのか、その裏側にある目的が何で、どういう機能が必要だったのかというところから、おこしてその結果として最適なベストミックスでの施設整備はこうなったというところで、きちっと理路整然とこちら側に対してアピールできるかどうかというところは、やってみないと分からない部分があります。ですからこそ、再三申しあげており我々はベストを尽くしますけど、この中で入口としてはどうしても押さえておかなければいかなかったのは、先ほど委員からお話しがあったように、なんでそれをやるのかという議論にあるような、どういった組み合わせだったら都市機能として意味があるのかってところを、その施設を整備したとこをどう考えていたのかというところは、この委員会の中でもサッカー場を整備するにあたって有益な考え方になるではないかと、そこは必ず次の回まで押さえるようにいたしますが、その延長に出てくるような論点をできるだけひろげて、塚井先生をはじめとして皆様からご指摘いただいたようなところもきちっとできる限り押さえられるような形をとっていきたいと思っておりますけども、そのような考え方で臨んでおりますのでということで補足をさせていただければと思います。

山根副会長

大変貴重なご意見感謝しております。私がちょっと違和感を持つ考えがあります。広島市は広く、山奥まであります。農山村もあります。その感覚で都市の機能を上げることは当然だと思います。しかし、その人の視点も大切だろうと思います。やはり、多くの市民の納得だろうと思います。それと、スポーツビジネス中心の話は違和感がございます。やはり、スポーツをもって広島市を活性化させていくと、それが今の幅広い地域の世界でありましょうし、まだ更に広い地域がありましょう。そういう意味で我々はサッカースポーツの普及発展を願って、それでスタジアムを作って、それによって地域の活性化を図りたいというように思っております。そういう意味での一方での都市機能の充実というのは、その下に位置付けられて考えられていくところならいいんですけど、何か入口がスマート・ベニューというのは違和感を持っておりますが、このような機能を充実させていくといくことが一つが都市機能の中での充実ということは、そういうことなんだろうなと認識しております。もちろんビジネス的に採算が合うということは改めてしっかり追求しないといけないと思います。

小谷野委員

今の山根副会長に発言に大変違和感を思います。スポーツビジネスとはいえ、我々はスポンサー料を集める時には、地域貢献という形で一所懸命頭を下げてスポンサー料を集めております。決して採算は大事だという次元ではなくてですね、広島にスポーツを根付か

せるためにチームの理念を持って我々行動しております。なので、ビジネスと言ってもいわゆる損した得したビジネスだけではなくて、地域貢献も踏まえて、あるいはまちの発展のために我々もやっておりますので、是非、スポーツビジネスということができると違和感があるというような表現で我々のビジネスを表現されるという事はこの委員会の趣旨からしても穏当ではないのではないかと思います。

野村委員

これはサッカースタジアム検討協議会なんですね、確かにスマート・ベニューの事も非常によろしいと思いますが、サッカースタジアムは何故必要かと言えば、広島のスンプレッチェを経営を安定し、そして今、選手が頑張ってるからなんとかしてやらないといけない、専用のスタジアム、いいものがあるんじゃないかと、ビッグアーチでなくてこっちでやったらどうかというのがスタートなんですね、スタートのところが段々よその方向に行ってるような気がしてならんのですが、やはりＪリーグは複数年の赤字が出たらＪ３に落ちるんですね、債務超過になった時点でＪ３に落ちるんです。そういう経営というのは非常に大切なんですね、その経営がちゃんとたっていくようなことを考えたスタジアムづくりをしていかないと、やっても意味ないのではないかと思います。それと、先ほど永田委員がおっしゃったんですが、前回の会議の時にたくさんの候補地が出たのですが、海の中まで出てきますから驚いたのですが、そろそろ場所の絞り込みをしていき、いきなり一つに絞るとは言いませんが、絞り込みをしていって候補地をある程度決めていき、そこにどういう複合施設を入れる必要なのかということを検討していただければ、非常に分かりやすいんじゃないかと思います。

三浦会長

色々ご意見いただきました。私としては、今回、政策投資銀行から話をさせていただいておりますが、単純にここだけの経営という意味で色々題材をお渡しした訳ではなくて、元々この協議会でやっているのは、広島という地域にとってのサッカーの必要性、重要性ということを認識をしたと思います。そのうえでの話ですので、当然、山根さんが言われましたように市民にとっていいものを作ると、それはサッカーというもので、言うならば市民一人一人が幸福に至るというような部分もあると思います。そういった点を当然考えないといけないのは大前提だと思っています。その中で手法としてはどのようなになるかということを披露していただいたと思います。それと、スンプレッチェのためと言われましたけど、そこだけに限定してしまうとちょっと狭いのではないかと、当然そこは視野に入れていますけど広く市民にとって、住民にとってという視点は必ず必要だと思います。そのうえで主としてスンプレッチェさんの方で使っていただくということになっていくのだらうと思っていますので、そこらも全部ひっくるめて、今後は暫く議論をしていかないといけないと思っています。

小谷野委員

皆様言わんとしていることは分かるのですが、スポーツビジネスとか採算性がどうこうという言い方をされると我々のスポンサーの方々に、スタジアム検討協議会で僕ら地域貢

献のつもりもあってお金を出しているのになんであんなこと言わしてるんだ言われる訳ですよ。

山根副委員長

まず、あなたが私の話をスポーツビジネスという言葉で違和感があるとおっしゃって、それはあくまでスポーツビジネスというのは当然ありますよ、そして、サンフレッチェは経営を成り立たさないといけないという話は当然あります。しかし、ここでサッカースタジアムを作ろうという話は、まず原点にはスポーツを通じて広島市を活性化させましょうというのが上にあるんでしょうという話をさせていただいておるんですよ、それに基づいて皆様はビジネスの支援をされたり色々する訳ではないですか、それが何が違和感がありますか、だから、一番上にあることは違うでしょという事を申し上げている訳でございます。

三浦会長

たぶん小谷野委員と山根副会長が言われていることは同じ事で、表現がちょっとずれただけだと思います。

そういった中で色々議論があつてですね、実はより詳しい分析も必要だというのが議論する中で出てきたと思います。実は、政策投資銀行の方は広島のために今回やって、一部手を加えていただきましたけど、この点については別のところで研究されていて、その成果を披露していただいた訳です、先ほど加藤委員も言われましたけども、この協議会で広島のまちづくりそのものの一部を考えるのはこの協議会の範囲を超えているのではないかという話がありました。多機能複合化の議論を進めた時に広島県や市に対して、今、何が具体的に必要なのですかという問いかけをした時に答えが出てこなかったわけですね。大きな視点では方向性は定まっていますけども、具体的なところで、緊急にここ10年くらい考えたら何が必要かということについては返事がなかったと、そんな中で今回せっかくスタジアムを核として議論ができる場ですので、そういった時に広島に必要なものについても併せて議論できればなと思っています。ただ、それは政策投資銀行にそこまでやってくださいというのは当然無理なので、なんらかのお願いをするような形をつくらないといけないのかなと思っています。それは事務方と相談しつつ、こちら場で専門家としての意見を上手く披露していただいて、私たちがそこについて、当然バックボーンが違いまして、都市機能そのものの議論はなかなかできるメンバーではないので、そこについては示唆をいただいて、それだったらちょうどいいなというものが見つかればいいと思っています。そういった中で、先ほど候補地の件もありましたが、いくつかの候補地でそれぞれ何ができるか、例えばアクセスひとつとっても色々な情報を整理して分析をしないといけませんし、場所によってどういった機能がそこででは成立するかということも変わってくると思います。それについては情報を出して分析をするということですので、すぐに簡単にいかないと思っていますので、そこはちょっと時間をかけて情報収集、分析のうえで、この場で披露していただいて、その中で絞り込みをしていければと思っています。ちょっと塚井先生にはアクセスの件で一旦お願いしたんですけども、なかなか情報分析も手間がかかるので、すぐには難しいということでしたし、ほかの委員の方でも、今後、絞り

込みにかかってきますから、そういった面でご自身の知見等で、こういう要件であればここがこういうところでもいいところがあるんだということで何か情報提供いただければと思っております。ちょっと具体的な話が十分でできましたが、まだまだそういった点は、今回の資料だけでは議論はできないと思いますので、次回以降で進めさせていただきたいと思っておりますし、山根副会長も言われたように、根本的なところについては決して失わずに私達は議論を進めていかないといけないと思っています。

これで政策投資銀行からの説明と議論は終わりとさせていただきたい思います。ありがとうございました。

先ほど、海外の事例という話がありましたが、実は中国新聞でも同様の内容で「都市とスポーツ」という事で、海外のスタジアムの多機能複合化ということについて特集記事を組まれておりました。それを紹介の資料をメンバーの方にはお配りしています。これは著作権の関係で委員限りの資料となっています。これは今すぐにここで議論してもないんですけど、資料については次回に向けて目を通していただければと思いますし、次回の政策投資銀行の海外調査の結果と併せて、私達が何ができそうかということ考える時の情報にしていければと思います。この資料について質問とかありますか。

加藤（厚）委員

この資料、非常に面白い資料なんですけど、複合化の事例がたくさんあがっておるんですが、複合化した場合の収益構造みたいなものは、データとして手に入るものなのでしょうか。

三浦会長

それについては、中国新聞の方に問い合わせをしてみない、現時点では、そこまで取材をされてないかもしれないです。

塚井委員

先ほど会長からも少し言っていただきましたけども、この記事は非常に参考になると思っています。実は少しかかるかもねと思いましたのは、最前からずっと地図をながめていまして、委員のお手元にしかないのかもしれませんが、最初のページでは、英国、フランス、ドイツ、スイスというその位のスケールの非常に大きな地図が描いてあって、スタジアムがここにありますよということなんです、これも確かにいいんですけど、我々がどちらかと言うと知りたいのは、そのまちの中でどの辺りにあるのが自然なのか、以前の会議からずっと同じことを申し上げているのですが、その感覚なんです。ただ、私がざっと調べた感じだと、先ほど政策投資銀行さんからの話もありましたけど、割と都心部に位置してビジネス的やっているような所もあり、そうでない所もあり、というようにどうやら色々あるということのようです。なので、これを見て、今回の適地選定という議論の中に都心部も入っているし、そうでない所も入っているというところが妥当なんだろうなというところは意を強くしたところです。ただし、その先にどんな条件が出てくるのかという事に関してはもう少し精査が必要であると思います。

実は資料とははなれますがよろしいですか。今までの議論を伺っていて、私も協議会に

課せられたミッションというものは何かということずっと考えております。ご発表あったことなので、ビジネスとか収支率という話を中心的に申し上げてきましたけれども、個人的に一番責任重大だと思っていますのは、ここで決めたことはどれだけのインパクトがあるかということ。まあインパクトがあらうかと思います。その場合、サッカースタジアムをつくる事を前提にどこがいいかという議論の仕方がひとつあります。もうひとつは、ひとつひとつの場所がどのような場所であって、そこに対してサッカースタジアムをつくとどうなのかという議論の仕方があるのですが、サッカースタジアムでなかったのかという事まで考えなければならぬかどうかという事です。これは大問題です。つまり具体的に申しますと、今の候補地の中に跡地もあるわけですね、私が一番恐れているのは、これは完全に広島顔になる施設のひとつだということです。あそこだけが顔だとは思いませんけど、しかしながら、景観の問題でも少し申し上げましたけど、広島真中、正しく中心にある場所、これにサッカーを選定して後世に恥じないことになるかどうか、その議論の仕方もあるはずなんですね、その場合、加藤委員からご指摘がありましたように「それを論じることは本当に我々の仕事なんだろうか、そんな非常に責任重大な事が我々の仕事なんだろうか」と。そのご意見は、ちょっと私も思わないでもないんですが、正直申し上げて、今まで決められなかった人達に何か決められるとは思えない。失礼な言い方ですけどもそのように思います。つまり、ずっと決まってこなかったものが、ここへ来て我々の仕事ではないと放り投げて、決めてもらえるかと言うと、それはちょっとないんじゃないかなと、その事も重々分かっています。つまり、決めずにおくということの機会損失ですね、これは投資案件であれば野晒しにしておくことは、そもそも機会費用が発生しているという事も当然なわけですけども、その一方で、例えば、跡地ならば、その場所の価値、跡地がおそらく一番シビアだと思いますけど、案で挙がっていた場所は役割があって、意図があって、様々な経緯があって空地になっているはずなんです。どこまでそれを踏み込んで議論すべきなのかというところは、若干危惧するところではありますが、やはり少し広めにとって議論すべきなんだろうと思います。従って、私の提案というのは、もちろん今の議論の仕方、つまりサッカースタジアムをつくるのであればどこだと、そしてその時にどのようなものが必要になるのか、これは非常に分かりやすい話で生産的だとは思いますがそれで十分とは思いません。これと同時に、全部の場所について必要かどうかは分かりませんが、つまり単なる空地に見えるような場所の文化とか歴史とか精神性みたいなものまで議論しましょうというのはとてもおかしい話だとは思いますが、何度も申し上げるとおり、この広島中心にあたる場所に関しては、それは少し考えておかざるを得ないだろうと思います。そうでないと、自信を持って選定したと申し上げられない。私も自分の専門では限界があります。正直言って都市計画、交通計画に工学の立場で関わってるだけの人間ですから、私の申し上げている事がどれほど正鵠を得ているかは分からない。しかし専門家のひとりと呼ばれた以上は責任を果たすつもりではおりますけど、従って、そのための数字を洗うことも大事ですけども、サッカーのビジネスとしての理念、あるいはスポーツを振興して行こうというそのビジョンと、他のビジョンの戦いという事になろうかなという感じがしております。他のビジョンが無いままにサッカーのビジョンは素晴らしい、確かにそう思うんですけど、他のビジョンと比べてどうなのかという議論まですべきだと思います。これはやはり少し荷が重いし、私もしなくてすむならしない

でもいいのではないかなと思うんですけど、しかし、それをしないで、今のまま適地選定、アクセスはどうだ収支構造はどうだという議論だけをしていると、なかなか実行可能なところまで繋がっていかない、結果的にまた野晒しが始まるという事になれば、これは広島にとって大変不幸な事かなと感じます。申し訳ございません、かなり余計なことを申しましたけども。

永田委員

ちょうど塚井先生と同じく私も危惧している部分ですが、我々に求められているのは一体何なんだろうかという事でして、例えば、複合型という形で、今この時点で考えても、将来10年20年30年、何が起こるか分からない訳ですよ、今ベストなものであって、将来ベストであるかどうかは、誰にも保証できないですし、ここで、候補地を選定したとしても、逆にそれが建てられるかどうかは別問題ですよ。我々はいったい何を議論すべきであって、何が必要なのか、もちろん私はスポーツビジネスを研究しておりますので、収益性の面とかスポーツビジネスということを考えればベストな場所はあります。ただ、そうじゃない地域を選定した場合、どういった形でスポーツによってまちを活性化させるべきなのかという事も考えなければならないでしょうし、また、いくらかけられるのか、それによっても全然変わってくると思いますので、そういった面も全く何も無い状況からどこにつくろうかなという、例えば、ここにするっていう形で提案したとしても、それが我々の総意で決定したとしても、それが必ず実現できるとは限らないですし、じゃあ、一体我々は何を求めて議論したらいいのかという部分が非常に曖昧だと思います。

山根副会長

そういう事だろうと思うんですよ、今の両先生のことは。私は思うのですが、スケジュールが25年度の末に中間報告を出すという事になっているじゃないですか。その事自体は旧市民球場跡地の検討との関係があるというのが認識にありますよね、そういう意味でサッカースタジアムの場所をどうするかポイントがそういうところにあると思いますが、議論しやすいように、まず、どれくらいのスタジアムが広島にあったらいいのか、収容人数の規模の議論をしたらどうかなと思うんですが、いかがでしょうか。

三浦会長

それは、規模によって前回の候補地がある程度絞られるという事ですか。

山根副会長

規模の議論はし易いじゃないですか、大切な議論なんですよ。それと複合施設が無いとできないというか、20試合しかないんだから、何にしろ複合施設なんだと、それは共通した話ですよ、複合施設と併せてスタジアムをつくると、それはどれくらいのスタジアムになるのか、5万人なのか、3万人なのか2万人なのか、どれくらいの規模が広島市に必要なのか、つくれるのか、という方から議論してみて、場所の議論といたりきたりしてみてはどうでしょうかね。

加藤（義）委員

そうですね、大体勉強会は色々と方向付け研究できたのかなと思いますけど、そういうのを念頭に置いて、先ほど副会長が言われたように、ある程度集約しなければいけない時期が決まっていますし、それから、色々、ルールでまとめながら知恵を出していかないといけないですね、活性化するためにどうするか、サンフレだけの試合だけじゃないよと、今、高校サッカーが強くないじゃないか、もうちょっと強くするためにはどうれば良いかとか、知恵を出していかないといけない。そのためにはある程度どこにどんなものをつくっていくかという議論で、副会長言われるのは、何人くらい入れて、どこにどのようなものをつくっていくか、今、砂漠に広島市をつくるのではなくて、今あるまちの中にどこにつくるかという話なのだから、そんなに多くはないですよ。この前、航空写真で見ても9か所、そういう中から、どこにつくれるかを私たちは情熱を持って本気で取り組まないといけない。あくまでスタジアム検討協議会で、本当は文化・芸術・広場とか色々な案があって、そういうところへサッカースタジアムの結論が出た時に、サッカースタジアムは吹き飛ぶかも分らん訳ですね、それじゃあ私達は、サッカースタジアムをつくろうという思いで情熱を込めて、こういうヨーロッパの例、それから今日も政策銀行から話があったような例、そういうもので色々固めていってですね、サッカースタジアムをどこにつくるかはまだ決まらないにしても、つくればこんな活性化ができて、単純に収益とサンフレッチェの経営だけではないと思うんです。今からオリンピックが2020年になりますから、7年後、そうすると国外から日本という所でプレーしたことないから外国からも一杯見に来る、やはり国際的な広島なら来るじゃないですか、そうするとスポーツプレイヤーが色々来るんですね、そういう施設は、本当はサッカー以外に色々欲しいところなんですけども、せめてサッカーでもできるのであれば、間に合うようにしたいなという感じもあります、そういう意味でサッカー協議会は市長からの命題は、つくることを前提にして検討してくれという話で、それにちょっと効果がどうかという事になれば、ぼちぼち少しどんなものをつくるか、副会長が言われたようなものも入り込んでも良いのかなという感じがします。それともうひとつ私達に会議の案内が来た時に、それぞれ委員の中で出したい資料があるかと聞かれました。そういう時に、ちょっと市や県の意見を聞いてやらなければいけない作業を伴う場合がある、やはり会長を通してやりたいなという感じはしているんですね、各自がバラバラに動くんですね、自分の思いだけを論文に書くならいいんですけど、皆様に説明して納得してもらおうと思うと、やはり市や県や色々なところの情報がいるんですね、是非、会長を通してお願いをしたいなという感じがしております。

山根副会長

これまで、三浦会長がこういう会をずっとやってこられまして、理解が深まったと思うんですよ。その点、三浦会長に大変感謝を申し上げる訳ですが、そういう意味で、ここから場所というよりは規模、及び複合施設に織り込むべき、我々が思う、どういうものが織り込まれば良いのかと、そのような話をしてみると、どっちにしろ複合施設ができないとどうにもならないのでしょ。複合施設サッカースタジアム論なんですよ、もう、はっきりと、そういう面での複合施設とはなんやと、規模が2万人、3万人と5万人は大違いだが、はたして、5万人を持つ広島市なのか、私には分かりません、3万人を持つ広島市

でいいのか、1万5千人でいいのか、そんなものまずありえないのか、そういう所を絞ったらですね、その次に場所の問題も絡めて話しやすいのではないのでしょうか。

加藤（義）委員

複合施設をつくろうという話はまだ決まってないですね、基町の野球場跡地につくるならば、複合施設でないと相応しくないだろうと、ただ、別の所につくるのなら、単体の施設でも良い、お金のかからないサッカーができれば良いという考えがあるかも、そういった議論を今からずっと、ある程度どんなものができるかなというところを起点にしてですね、そんな議論をしていけば良いのではないかと思いますね。

川平委員

規模も当然でしょうし、もうひとつは、立地上の制約がおそらくあるんですね、例えば、私もよくわかりませんが、例えば、都市公園法に制約があると、これはどういう制約があるか、商業施設を附随してはいけないなどの規制があるとしたら、それも調べたうえでないと、なかなか議論は進まない。例えば3万人規模のものをここに作りたいといったときに、いや、そこは、実はこういう法的な制約があってできないとなったら拙いですから、そこも含めて、立地上の制約条件があるのであれば、それも出したうえで考えていけばいいのかなと思います。最初の段階ですから、出す項目はできるだけ絞って議論した方が物事は進みやすいのかなと思います。

鵜野委員

私はですね、我々メンバーにとって広島に相応しいサッカースタジアムについて具体的に固めていけばいいのではないかと考えています。提案ですから。そういった中で議論が広がっていくので、先ほど副会長が言われたように、もう具体的な議論を進めていけばいいのではないかと思いますし、複合型ということであれば、色々なアイデアが欲しいので、もし、日本政策投資銀行さんがそのまま調査をしていただけるのであれば、そのまちらしい複合機能を出しているところがある、とか、具体的に議論ができる事例みたいなものを教えていただければ、今後ますます進んでいくかなと思いますので、よろしくお願いいたします。

野村委員

去年、サッカー協会でかなり絞り込んだ資料を作っておりますので、もしよろしかったら次回の会議の時に、5か所位を選定して、その中でどういうふうなものをつくれば良いんじゃないかというのを作っておりますから、100%のものではないですが、それを出してもよろしかったら出させてください。

永田委員

それプラスですね、どうしても必要となってくるのが、建設資金といいますか、それをどういうふうに活用するか、およそどのくらいかかっていくのかというのは見ていく必要があるのかなと、でないと絵に描いた餅じゃないですけど、金額を考えないのであれば相

当良いものができると思います。ただ、この位かかってしまうけど、こんなに良い付属設備があって複合型なんですよということも説得力があると思うんですね、ですから、これ位かかるけどこういったものが必要だからこういった形でつくりたいというように、ある程度金額的な建設費というものを考えていかないといけないのかなと思います。

小谷野委員

川平委員と永田委員の意見を補足する形ですが、やはり都市公園法の縛りがある時と無い時で、複合機能が変わってくるというのはありますし、最近はかなりスタジアムが色々な形でできるようになったので、個席あたりの建設費はかなり下がってきたりとか、そういう状況もあると思うんですよ。なので、こうした規模ですとか、機能の議論をするのと並行して、Ｊリーグ等のこういう分野をやっている人に、今の現状どうなっているのかとか、その辺を意識共有するのも大事かと思います。

三浦会長

色々、今後に向けてのご意見いただきました。それで先ほど規模の話もありましたが、実はその規模をいくらにすること自体も色々な判断材料を見て考えないといけないと思います。これまでは、国際的な視野という事で、国際試合はある程度できるというのが一つの最低ラインとしては認識があったと思います。それ以上どうするかについては、まだ議論していませんし、そういった時の集客の面で本当に見込めるかという事も考えないといけないと思います。単純にそれぞれ何万人がいいですかと言っても判断ができないと思うんですね、ですから、今日お話をいただいた事も含めて、規模、場所そしてどれだけの資金でやるか、それらを全部ひくくめて議論をこれからですね、それぞれ考えの資料もあると思いますので、出していただいて、私達はその中で不適な所は落としていって、絞ったところについては熟度を上げていく、これが良いんだろうと思っていますので、是非、次回以降も一歩ずつでも進めていく議論になっていけばと思っていますので、よろしくお願いしたいと思います。

もう一つ資料がありますので、サッカーリーグのクラブライセンスのものがあります、これは小谷野委員からお願いします。

小谷野委員

これは現状報告でございます。おかげさまでクラブライセンス初年度、無事にクラブライセンスが交付されました。一方でスタジアムの施設基準のところでは引っかかっておりまして、屋根の3分の1をカバーしなきゃいけないというところと、観客千人に対して洋式トイレ5台というところが0.8台ということで、これは、言葉はきついんですが、Ｊリーグから制裁という言い方になってまして、これは今後の対応等について文書で我々が返答するという事で、とりあえず屋根が足りない部分については各売店で雨合羽を必ず売りますと、今後も頑張りますと。それから、トイレの方は衛生環境等の改善を一生懸命やりますという事を文書で書いて、今年は許されそうですけれども、これも附随の資料ありますとおり、いくつかのクラブがかなり引っかかってるんですね、施設基準。一方でＪリーグの方は、ここを緩める感じでもないの、こういう制裁に対して文書で答えるのが何

年続くのか、それはちょっと分からないところだなというのが1点ですね。それから、資料の4のところはですね、これまで、スタジアムの幹線環境等について、クラブにはこういう話きてるよといったようなですね、どちらかという和我々から見た主観的なコメントが多かったと思うのですが、今年度、Jリーグ実施のアンケート調査ですね、オンライン調査でサンフレッチェの会場に来た人にですね、アンケートを記入するキーを渡して、自宅のパソコンで入力するという形のアンケートで、まあ細かいところは見ていただいてよろしいかと思うのですが、一番最後の自由回答でスタジアムとか観戦に関して不満点を書いてくれという欄がありまして、色んなコメントが出ておりますけど、それをまとめた円グラフがこのページでございます。103名の方が色んな事を書いてあるんですが、苦情の中でやはり一番多かったのがアクセス問題、やはりちょっと遠いとか、交通手段少ない、渋滞多い、駐車場少ない、シャトルバスに乗るまで時間がかかると。それから、次が設備の問題ですね、やはりビジョンが壊れているという事と、屋根が無いこと、それから洋式トイレ、それからアクセスと関係するんですが、駐車場の問題、設備の老朽化に関することが多いのかなと思います。その他、運営とか環境等々色々ありますけども、やはりスタジアム環境の中で言うと、アクセスと設備問題が大きかったかなと、その次に運営上の細かいことで、これは、我々が歯をくいしばって頑張っていくところも多いと思います。

三浦会長

こちらの資料について、何か質問等ありますでしょうか。

先ほども言いましたように、今、色んな考え方とかを私達は共有化しつつ、今後具体的な施設、その内容、立地、資金等々について議論して行って、熟度を高めていくようになると思います。ですので、先ほどのこういった資料を用意したいというご意見もありました。是非、用意していただきたいと思いますし、こういうことを用意したいのだけど、事務局等の協力が必要だという事があれば、私の方に言っていただければ、用意をして、また委員にもお渡しをして行こうと思います。そういったことで、深めて行こうと思っています。

今回は、先ほど前半部分でも議論がありました政策投資銀行からの海外スタジアムの事例調査報告ですね、これについて受けて実際どうなのかということについて、私達も理解したいと思いますし、できれば先ほどあった中国新聞社の方でもですね、より詳しい情報があればという事でもう一度問いかけをしてみたいと思っています。それから、次回以降ですけど、実際にエディオンスタジアムそのものの実態を私達も何回か行ってますけど、観客として行った場合に見えない所もあると思いますので、その辺も含めて一度スタジアムの方での会議などを考えておりますし、それから先進的に日本の中で作られている所もやはり見ておくべきと思っていますので、そういった視察をしていければと思っています。お忙しいなか、なかなか日程調整難しいと思いますが、できればそういった所を見たうえで議論、実際ある程度イメージつくっていかないと、今のところ色んな資料ばかりですので、実物を見てということも必要だと思っています、そういった点も進めていきたいと思っていますので、またご案内をさせていただきますので、またよろしく願いいたします。

次回については、事前に送らせていただいた日程表でお聞きしたところ、11月19日の10時か、22日金曜日の15時、あるいは29日金曜日の10時あたりになろうと

と思いますが、今調整中ですので、調整できましたら案内させていただくことになると思います。

塚井委員

当初に立てられた予定もお有りかとも思うんですけど、私が危惧しておりますのは、例えば、私の専門のところだけで申しまして、交通アクセスについてシミュレーションしなさいと言われると結構時間かかります。このペースで次々回までにそういうことができるかと聞かれると苦しいものがあるって、それでこそあまり良くない資料で、あれは分からないこれは分からないという事になると思うんですね。会長がお話になった事の中には色々なメニューがありましたので、必ずしも資料が無くてもできるような回もあるでしょうし、しかしながらオプションの中に入れておいていただきたいのが、資料を待つということも必要ではないかと思います。多岐に渡る議論でどうしてもここまでの議論だということまで議題にしてあげられても、会長が苦勞されているにもかかわらず、我々の方であれが無いから分からないとか、これが無いからできないというような事もできてしまうと思うんですよね。なので、大変調整の難しいなかスケジュール苦勞されていると思うんですけど、場合によっては、キチンとした資料ができるタイミングを少し見計らっていただくように、まあ、当初予定のとおりでとりあえずスケジュールをはめていただいてお考えいただいてもいいのかなと思っています。

三浦会長

それは思っています。色んな資料を今後具体的に詰めていかないといけませんので、何もない状態で議論しても進みませんから、その辺ができた段階で、まあ11月については政策投資銀行の方からの情報提供は期待できますので、それ以降についてはおっしゃるように考えて行こうと思っています。そういった中でスタジアムの視察を途中で織り込めればと思っています。

小谷野委員

今の話との関連なんですが、そういった規制の問題ですとか、ある程度スタジアムの建設規模の現状とか、そういう情報共有のセッションというのが、例えば資料が出てくる間に、ちょっとセッションで時間が埋まらないのであれば、そこに合わせて持っていくとか、その辺うまく日程を組んでいただければと思います。もちろん資料を待つというのもいいことだと思いますので、やはり良い資料で議論したいと思います。

三浦会長

ありがとうございます。それでは本日の協議会を閉会といたします。皆様ご協力ありがとうございました。